

## Broaden your horizons<sup>89</sup> ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。

今年のボジョレーヌーヴォーの解禁日は11月21日だとか。

日本は、神様もお酒好きですし、庶民もお酒好きです。ところが、厚生労働省の試算によると、アルコール関連死亡者数はなんと

年間3万5,000人にも上るそうです。そして、治療中の患者数は約4万人(2011年)、アルコール依存症の推計患者数は80万人と、酔いがさめるほど多いのです。習慣的な飲酒でアルコールに対する耐性ができ、量が徐々に増えてくると、体からアルコールが切れないよう数時間おきにお酒を飲む「連続飲酒」へ移行します。そして、体内からアルコールが切れたとき、手の震えや多汗、睡眠障害(不眠)、下痢、幻聴、幻視など、さまざまな離脱(禁断)症状が発現します。治療・再発防止には生涯にわたる断酒が必要ですが、こうした中、断酒中のアルコール依存症の患者さんには朗報となる新しい処方薬が5月に登場しました。「生涯断酒」は患者さんにとってとても難しく、神経系に作用するとされる新薬の効果に期待が寄せられています。

断酒中のアルコール依存症患者向けの処方薬としては、これまで抗酒薬「ノックピン」(ジスルフィラム)と「シアナマイド」(シアナミド)がありました。アルコール分解過程を阻害し、コップ1杯のビールでも吐き気や眠気、顔面紅潮などを引き起こします。新たに登場した「レグテクト」(アカンプロサートカルシウム)は断酒補助薬で、中枢神経系に作用します。アルコール依存で異常に増大した飲酒欲求を和らげ、お酒に対する欲求を減退させます。

これまでの治療では断酒が続く患者は3分の1程度だったそうです。これに対する「レグテクト」の臨床試験では、6カ月の連続服用で47.2%、服用中止6カ月後も4割弱の患者が完全に断酒できたそうです。ただ、お酒を飲んで不快感や体調不良を覚えれば「飲み続けられない」、それを利用したお薬なので、飲酒の予防にはなりません。精神依存の予防にはなりません。

やはり、最後に必要なのは教育と周囲の支援でしょう。薬剤師の私たちはどちらも支援できるのですから、「最後の断酒補助薬」=「薬剤師」として、お酒と上手にお付き合いするお手伝いをしていきたいと思います!

お話の続きは、11月10日(日)の「次世代の薬剤師を創る会 in 大阪」で。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子